

NTTデータ×GoogleのAIエージェント共同開発：技術・背景・戦略の詳細報告

技術内容：共同開発するAIエージェントの特徴

NTTデータグループとGoogleが共同開発を進めるAIエージェントは、人間に代わって営業やマーケティングなどの業務を自律的にこなす次世代型AIシステムです^①。このエージェントはGoogleの生成AI技術（大規模言語モデル）を基盤として実現される予定で、NTTデータの顧客企業内に蓄積されたデータを学習し活用します^①。具体的な機能としては、例えばコールセンターでの問い合わせ対応や、過去の取引データの分析による営業提案の自動生成など、複数の業務領域にわたる50種類以上のタスクへの適用が想定されています（報道情報）^②。特にマーケティング分野での活用が注目されており、顧客対応からデータ分析・提案作成までを一貫して処理できる高度なエージェントを目指しています^②。

このAIエージェントは、NTTデータが提供する他のAIサービスとも連携し、複数のAIエージェントが協調してタスクを実行する構想にも位置付けられています^③。NTTデータでは、社内で「Smart AI Agent™」と称する生成AI活用コンセプトを掲げており、単一業務に留まらず業務プロセス全体を自律的に最適化できるAIエージェント群の実現を目指しています^③。今回のGoogleとの共同開発エージェントも、そのコンセプトを体現する先進的な事例となるでしょう。

提携の背景：NTTデータとGoogle協業の経緯と狙い

NTTデータとGoogleがこのような協業に踏み切った背景には、企業向けAIソリューション市場の拡大と安全性への需要があります。近年、生成AIやAIエージェントをビジネスに取り入れる動きが加速する一方、プライバシーやセキュリティへの懸念からクラウド上の汎用AI利用に慎重な企業も少なくありません^④。NTTデータは幅広い業界におけるシステムインテグレーション実績と顧客基盤を持ち、Googleは最先端のAI技術（生成AIモデル群やクラウド基盤）を有しています。両社がそれぞれの強みを持ち寄り協力することで、企業ニーズに合致した安全・効率的なAIエージェントサービスを創出できるとの判断が、提携の大きな動機となりました^⑤^⑥。

この提携は2023年頃から深化したNTTデータとGoogle Cloudの協力関係の延長線上にあります。NTTデータはGoogle Cloudのプレミアパートナーでもあり、従来からGoogleのクラウド技術を活用したソリューション提供に注力してきました。Google側にとっても、NTTデータの持つグローバルな顧客ネットワークや産業知見は、自社AI技術のエンタープライズ展開を加速させる上で魅力的な資産です。両社とも世界的なAI利活用の潮流に乗り遅れずリーダーシップを発揮するため、戦略的パートナーシップによってシナジー効果を追求していると考えられます^⑤。特に今回のエージェント開発は、世界大手同士が組むことで企業のAI導入に弾みを付けるものと位置付けられており、業界に与えるインパクトも大きいと期待されています^⑦。

マーケット戦略：グローバル展開計画とターゲット

NTTデータとGoogleの共同開発したAIエージェントは、当初からグローバル市場での提供を念頭に置いています^①。日本国内はもとより欧米やアジア各地域の企業に向けて展開し、世界中の顧客企業がこの高度なエージェントを利用できるようにする計画です。特定の業界に限定せず、金融・保険、製造、小売、公共セクターなど幅広い分野の企業業務を支援する汎用的なソリューションとして売り出される見込みです。特に営業・マーケティング、カスタマーサービス領域は業種を問わず共通するニーズが大きいため、まずはコールセ

ンターや販売現場の自動化ニーズが高い業界（例：通信、金融、小売など）を重点ターゲットに据える可能性があります。

販売形態・収益モデルとしては、NTTデータが自社のSIサービスに組み込む形でソリューション提供（プロジェクトごとの導入支援）を行うと同時に、汎用部分はクラウドサービスやサブスクリプション型製品として提供することも検討されているようです。NTTデータは既に自社の生成AIソリューション群「LITRON」の一部として業務特化型エージェントサービスを提供し始めており（例：マーケティング業務向けのエージェント）⁸、今回のGoogle技術を活用したエージェントも同様にパッケージサービス化して販売される可能性があります。グーグル側の収益は基盤モデルやクラウド利用料から、NTTデータ側はソリューション開発・カスタマイズ費用やサブスクリプション料から得る形で、両社で収益をシェアするモデルとなるでしょう。いずれにせよ「世界で販売する」と報じられている通り¹、日本発のソリューションをグローバルに展開する戦略が明確に示されています。

安全性への配慮：設計上のセキュリティ対策

今回のAIエージェント共同開発で強調されているキーワードの一つが「安全性」です。具体的には、顧客企業の機密データが流出したり不適切に学習に使われたりしないようにする対策が重視されています。NTTデータは、このエージェントのAI処理基盤を自社のデータセンター内で運営する計画であり、機密情報を社外のクラウドに出さずに済む仕組みを取ります¹。これにより、企業の機密データや個人情報を扱う際にも高い情報セキュリティが確保でき、データ主権やコンプライアンスへの配慮も万全になります。また、エージェント導入時にはプライバシーやセキュリティ上の懸念に対応するための各種設定を実装するとされており、必要に応じて回答内容のフィルタリングや利用者権限の管理など、安全に運用するための設計が組み込まれる見通しです⁴。

さらにNTTデータは、AIエージェントの安全・信頼性指針にも取り組んでいます。業界動向を踏まえて策定した「Smart AI Agent開発ガイドライン」や、生成AIをビジネス活用する上での内部ポリシーに従い、透明性・説明可能性や誤回答（ハルシネーション）対策にも配慮した開発を行っていると考えられます。実際、NTTデータは親会社NTTの研究所とも連携し、AIエージェント同士が対話し協調してタスクをこなす際の合意形成プロトコルや、意図を読み取って調整する高度な対話モデル技術なども開発しています⁹¹⁰。こうした最先端の研究成果も取り入れることで、安全かつ暴走しないAIエージェントを実現しようとする姿勢がうかがえます。

総じて、「安心・安全な生成AI活用」はNTTデータのAI戦略全体の柱であり、本エージェントにもその哲学が貫かれています。NTTデータはセキュリティサービス分野でも実績があり、自社でゼロトラスト環境を構築・運用してきたノウハウを持つことから¹¹、AIエージェントの提供においてもセキュリティと利便性の両立に細心の注意を払っています。

NTTデータのAI戦略全体と今後の展望

今回のGoogleとの提携は、NTTデータの広範なAI戦略の一環として位置付けられます。NTTデータは生成AI・AIエージェント分野で積極的な投資と協業を進めており、直近では欧州のスタートアップであるMistral AI社との提携も発表しました¹²。Mistral AIとの協業では、安全性と持続可能性を重視したプライベートAIをグローバルに展開することを目指し、企業向けにカスタマイズ可能な大規模言語モデル（LLM）を提供してデータガバナンスや法規制への対応を強化する計画です¹²。具体的には、金融・保険・防衛・公共など規制の厳しい業界に向けて、持続可能（省エネ）かつ高セキュリティなAIソリューションを共同開発し、インフラから業務プロセスまでエンドツーエンドで支援する取り組みが始まっています¹³。NTTデータはこの提携の中で「Mistral AIセンター・オブ・エクセレンス」を社内に設立し、自社人材の育成や専門知見の集約を図る一方、Mistral側もNTTデータ向けの技術トレーニング制度を設けるなど、密接なパートナーシップを構築しています¹⁴。

さらにNTTデータは、**OpenAI社（ChatGPT）との協業**にも踏み出し、日本企業として初めて「ChatGPT Enterprise」の販売代理やソリューション提供を行うなど、自社顧客に最適な生成AI技術を提供すべく**マルチパートナー戦略**を展開しています¹⁵。これら一連の動きは、単独のベンダーに頼らず**複数の最先端AIモデルを取り込み、自社のSI能力と組み合わせで付加価値を生み出す**というNTTデータの戦略を示しています。

NTTデータの**独自性**は、グローバルSier（システムインテグレーター）として培った業務知識や顧客基盤と、外部の先端AI技術を融合させる点にあります。自社開発の基盤（例えば前述のSmart AI Agent™エコシステム）と、OpenAI・Google・Mistralといった**多様なAIモデル提供者との連携**により、NTTデータは用途や業界に応じた**最適解のAIソリューション**を組み上げることが可能です¹⁶。Abhijit Dubey氏（NTT DATA, Inc. CEO兼Chief AI Officer）も「高性能なAIモデルとNTTデータの包括的なAIケイパビリティ（Smart AI Agent™エコシステム等）を組み合わせることで、企業向けに安全でスケーラブルかつ持続可能なAI導入を実現できる」と述べており¹⁶、同社が目指す方向性は「**信頼性の高い生成AIをグローバル企業へ安心して届ける**」ことに他なりません。

今後NTTデータは、今回のGoogleやMistralとの協業を通じて得た知見を活かし、**業種特化型のAIエージェント開発**や、マルチエージェントが連携する**高度な自律協調システム**の実用化を進めていくと考えられます。日本発の技術とグローバルパートナーの力を組み合わせる戦略により、NTTデータは世界市場で独自の存在感を示しつつ、AIエージェント時代のリーダーシップを発揮していくでしょう¹⁶。

参考文献・情報源: 日本経済新聞¹⁷、Investing.com¹⁷⁴、Nikkei Asia⁵、NTTデータ ニュースリリース¹³¹⁶、ITmedia・Ledge.ai報道¹²¹⁵ など。

¹ ⁷ [B! あとで読む] NTTデータGとGoogle、AIエージェント開発へ 安全性高め世界販売 - 日本経済新聞
<https://b.hatena.ne.jp/entry/s/www.nikkei.com/article/DGXZQOUC1012P0Q5A810C2000000/>

² ⁴ ⁶ ¹⁷ NTTデータ、Googleと提携しAIエージェントサービスを開発へ - 日経 執筆：Investing.com
<https://jp.investing.com/news/stock-market-news/article-93CH-1212361>

³ AIエージェント (AI Agent) | NTTデータ - NTT DATA
<https://www.nttdata.com/jp/ja/services/generative-ai/ai-agent/>

⁵ NTT DATA and Google Join Forces to Revolutionize AI Agent Tech in Asia | AI News
<https://opentools.ai/news/ntt-data-and-google-join-forces-to-revolutionize-ai-agent-tech-in-asia>

⁸ マーケティング業務を最大6割削減する新たなAIエージェント ...
<https://www.nttdata.com/global/ja/news/release/2025/051900/>

⁹ お互いに空気を読みながら複雑なプロジェクトを推進するマルチAI ...
<https://group.ntt.jp/newsrelease/2025/08/08/250808b.html>

¹⁰ NTT、人間を模倣して“互いに空気を読んで”複雑なプロジェクトに ...
<https://internet.watch.impress.co.jp/docs/news/2038274.html>

¹¹ サイバーセキュリティ | NTTデータ - NTT DATA
<https://www.nttdata.com/jp/ja/services/security/>

¹² AI最新ニュース要約（2025年8月11日） | y-kishioka
<https://note.com/kishioka/n/n9a0b04ff1ad9>

¹³ ¹⁴ ¹⁶ NTT DATA and Mistral AI to Shape Future of Sustainable and Secure Private AI for Enterprises
<https://services.global.ntt/en-US/newsroom/ntt-data-and-mistral-ai-to-shape-future-of-sustainable-and-secure-private-ai-for-enterprises>

15 NTTデータグループがOpenAIと提携、日本初の「ChatGPT ...

<https://webtan.impress.co.jp/n/2025/04/28/49088>